

マイナ保険証の利用促進のために

「マイナンバーカードをお持ちですか？」キャンペーンの推進

一般社団法人 日本保険薬局協会

副会長 藤井 江美

2023年9月13日

本日お伝えしたいこと

1. 日本保険薬局協会（NPhA）会員企業は医療DXを積極的に推進しています

- オンライン資格確認稼働率：95.5%
- 電子処方箋受付可能薬局：3,254薬局（全体の56.8%）

2. NPhAがマイナ保険証の活用のために取り組んできたこと

- 「時代は、マイナ保険証へ」啓発動画、チラシの作成・配信

3. マイナ保険証の活用フェーズとして「『マイナンバーカードをお持ちですか』キャンペーン」を進めます

- 会員企業 3 7 4 社 1 万8,695薬局で10月からキャンペーンを展開

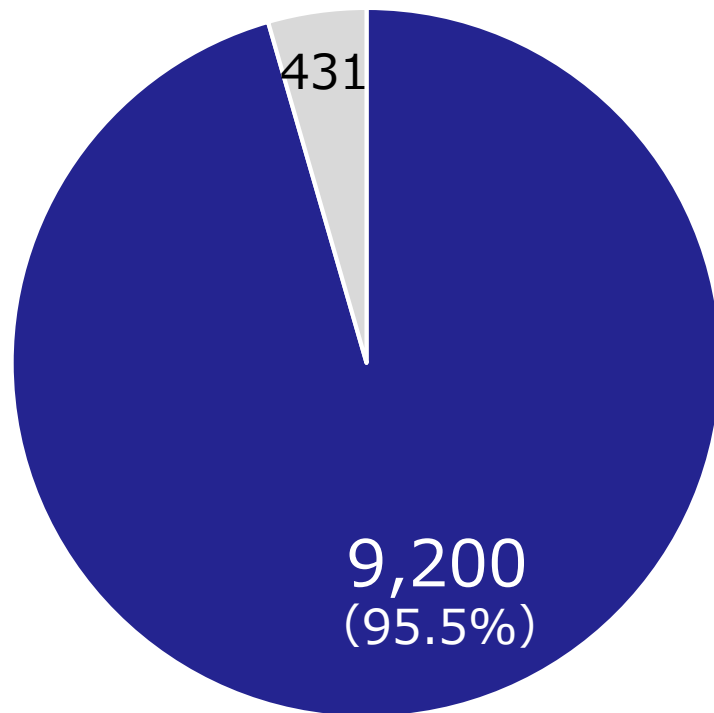
4. 患者・薬局・薬剤師が医療DXの真の価値を実感するために

- システムによる情報整理や標準化のために関係団体との連携を図るとともに、国による継続的な支援を要望

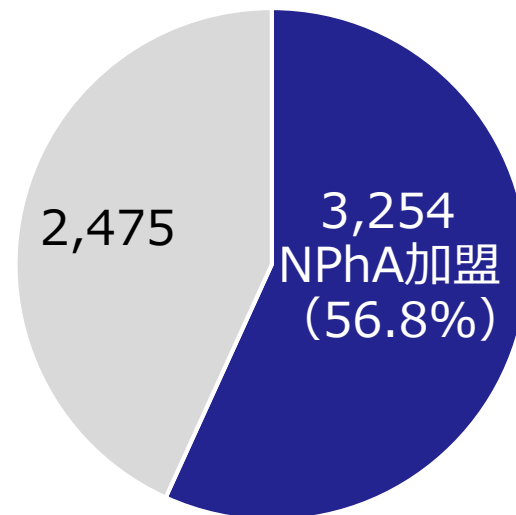
1. 日本保険薬局協会（NPhA）は医療DXを推進しています

NPhA会員企業はオンライン資格確認等システムの導入や、電子処方箋の受付準備を積極的に進めています。オンライン資格確認は2023年4月の義務化前にすでに95.5%が稼働済みであり、電子処方箋受付可能薬局の6割弱がNPhA会員企業の薬局です。

オンライン資格確認稼働薬局数
NPhA加盟96社、9,631薬局（23/3月調査）



電子処方箋受付可能薬局数
全国で5,729薬局（8月27日時点）



■ 電子処方箋対応薬局の受付



2. NPhAがマイナ保険証の活用のために取り組んできたこと

NPhAでは、マイナンバーカードによるオンライン資格確認の推進のため「時代は、マイナ保険証へ！」をキーフレーズとして、会員薬局で患者向けに使用する資材の作成・提供を進めてきました。

啓発動画「時代は、マイナ保険証へ」
の作成・配信（2023年3月）

<https://www.youtube.com/watch?v=1A1dFPLR3Ro>



薬局内のモニターで放映することを目的に作成

活用啓発チラシの作成（2023年1月）※別添



3. 「『マイナンバーカードをお持ちですか』キャンペーン」を進めます

- これまで、会員各社ではオンライン資格確認に関する設備・システム整備、さらに電子処方箋へのシステム対応に積極的に取り組んできました。
- 今後は、これらのシステムを実際に患者に使っていただく**活用フェーズ**への移行をにらんで、もう一段の取り組みをしていきたい。

利用率の向上のためには
当面、患者には、シンプルかつ地道なお声かけが有効ではないか



会員企業 3 7 4 社 1 万8,695薬局に対し
患者の受付の際、「保険証をお持ちですか」ではなく
「マイナンバーカードをお持ちですか」
とお声をおかけすること
を内容とする

『マイナンバーカードをお持ちですか』キャンペーン
の10月実施に向けて準備を進めていきたい

4. 患者・薬局・薬剤師が医療DXの真の価値を実感するために

- オンライン資格確認は、電子処方箋そしてさらなる医療情報連携の第一歩
- オンライン資格確認による返戻の減少は大きな効果だが、薬剤情報や健診情報等の確実で網羅的な情報管理と、患者や処方医との情報共有が実現し、それによる服薬指導等のサービスの質向上こそに意義がある
- 患者・薬局・薬剤師のがそれぞれの立場で、医療DXの意義を実感できるようにすることが今後の課題

課題と対応の方向

情報管理による薬剤師サービスの充実に加えて、**重複・禁忌チェック機能の活用**や、**処方医との連携**が容易になることで薬物治療における**安全性が向上**します。

→ 好事例の収集や共有により、情報の利活用手法を普及することが重要

薬局では、従来の「お薬手帳」と「記憶」に比べて、**得られる情報と連携が格段に増える**こととなります

→ システムによる情報整理や標準化を通して、薬剤師業務の支援や統計的処理の基盤を作ることが重要

医療介護に携わるより多くのプレーヤーが医療DXを活用することにより、医療上の効果に加え、運用・投資コストや業務負担に見合う価値を実感できます

→ 関係団体との連携を図るとともに、国による継続的な支援をお願いしたい

医療DXへの対応

国民自身が利便性向上を感じることができ、そして、より良質な医療やケアを受けられるよう、そのベースとなるマイナ保険証受付の啓発活動や好事例の共有等を通じて**NPhA加盟374社の機運を高め、引き続き、医療DXを着実に推進します。**

医療情報連携の仕組み導入

- オン資のネットワークが電子処方箋及び医療情報連携の基盤となる
- **マイナ保険証活用による患者「同意」のもとで医療情報連携が推進される**
- 23/4月よりオン資導入の原則義務化

マイナ保険証受付の啓発活動を実施

Phase 1

電子処方箋に基づく情報連携

- 重複・併用禁忌チェック、普及すれば処方薬一元管理が可能
- 処方箋に基づく医療機関・薬局情報連携の仕組みとなる
- 25/3月末までに概ね全ての医療機関／薬局が電子処方箋導入（目標）

電子処方箋導入促進

オンライン×電子処方箋

- オンライン診療・服薬指導の普及
- マイナカード機能のスマホ搭載
- リフィル×電子処方箋（次の開発フェーズ）

Phase 2

医療情報連携の更なる拡大

- 連携できる情報の拡大
- 電子カルテ情報の送受信
- 全国医療情報プラットフォーム創設

Phase 3

參考資料

NPhAの概要

デジタル推進委員会において、「薬局に必要となるIT」をテーマに活動し、会員の医療DX推進をサポートしています。

業界を取り巻く課題に対し、委員会を中心に対応

会員企業	正会員374社
会員薬局数	1万8,695薬局
薬剤師数	7万2,343人
従業員数	33万7,080人
年間調剤売上	2兆9,816億円

▶ 2023年9月時点

1. 医療制度検討委員会
持続可能な薬局が適正に評価される医療制度の実現に向けた活動
2. 薬局機能創造委員会
次世代の薬局サービスのあり方の検討及び薬局機能の創造に関する活動
3. 人材育成検討委員会
求められる薬局サービスを提供する薬剤師の養成及び資質向上に関する活動
4. リスクマネジメント委員会
薬局経営・運営におけるリスクマネジメントの徹底に向けた活動
5. 災害対策・社会貢献委員会
災害時の地域・協会員に対するサポート体制の検討と実施
薬局及び薬剤師によるCSR、SDGsの達成に向けた活動
6. 医薬品流通・OTC検討委員会
医薬品流通の問題を検討し適正化に導く活動
7. 研修企画委員会
地域包括ケアに係る研修等に関する活動
8. デジタル推進委員会
今後薬局に必要となるIT及び保健事業に関する活動
9. 実務実習運営委員会
薬学部実務実習指導薬剤師養成ワークショップの実施等に関する活動
10. 広報委員会
広報及び会報誌発行に関する活動
11. 総務委員会
定時総会及び賛詞交歓会開催に関する活動
12. コンプライアンス委員会
会員各社のコンプライアンスの遵守を推進するための活動
13. 組織委員会
全国11ブロックにおける組織強化及び協会活動、意見交換等の実施



診療報酬改定説明会



地域医療連携の手引き（薬局版）



健康サポート薬局研修



タイムリーな情報発信

ホームページを通じての情報提供

- ・協会ホームページにおいて、協会活動や会員薬局の情報配信
- ・行政からの通知や業界に関する最新情報をメール等で随時配信

会報誌「NPhA(エヌファ)」発行

- ・協会の活動状況、業界の動きなどを網羅した会報誌を全会員に配布

賛助会員からの情報提供

- ・賛助会員の扱う商品やサービスを勉強会やメール等でご紹介



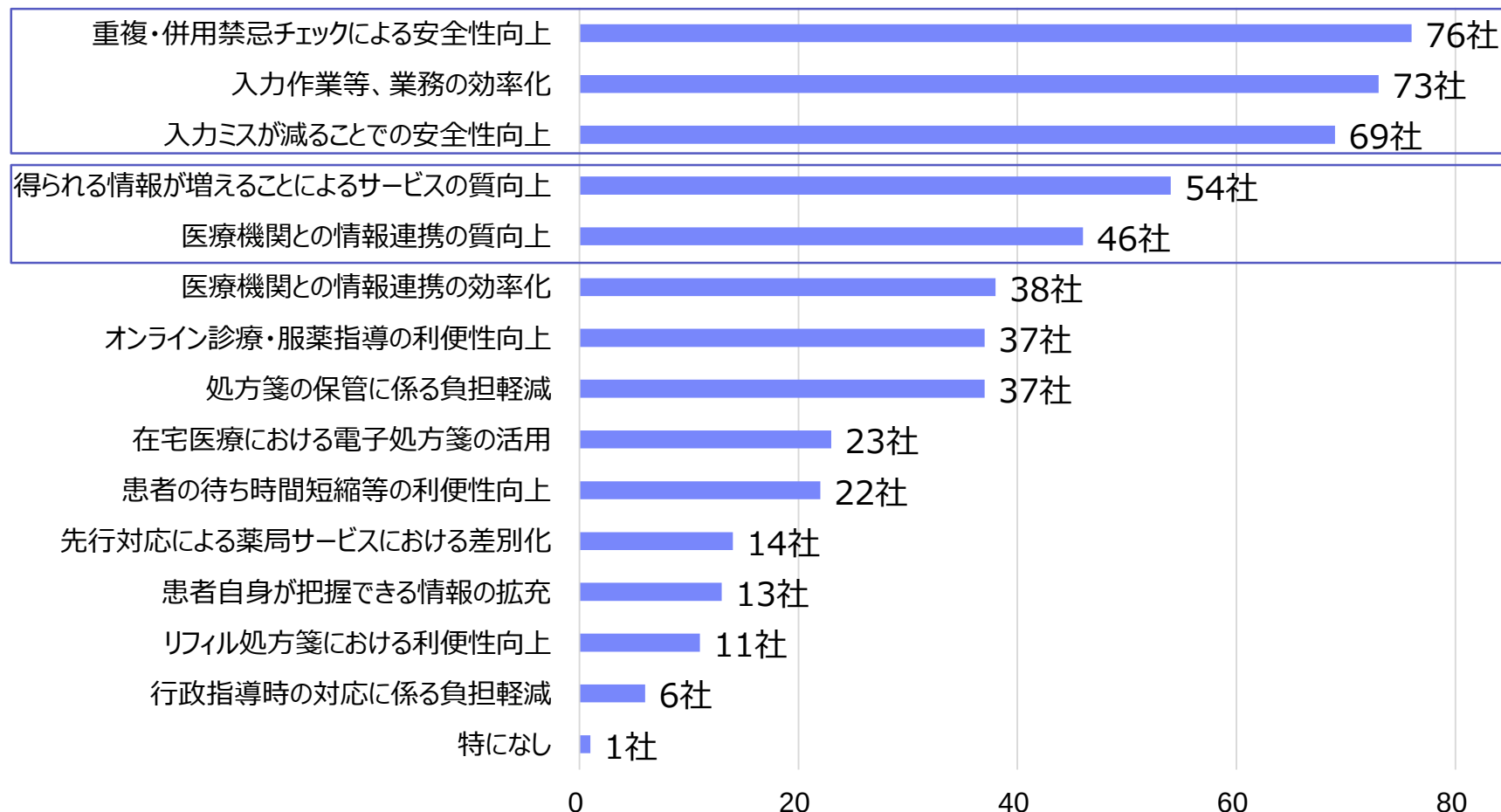
会報誌「NPhA(エヌファ)」

オン資及び電子処方箋への期待

安全性向上や効率化だけでなく、得られる情報が増えることや情報連携によるサービスの質向上への期待は大きく、そのメリットを享受するためには、医療機関、薬局への**マイナ保険証受付及び同意が不可欠**です。

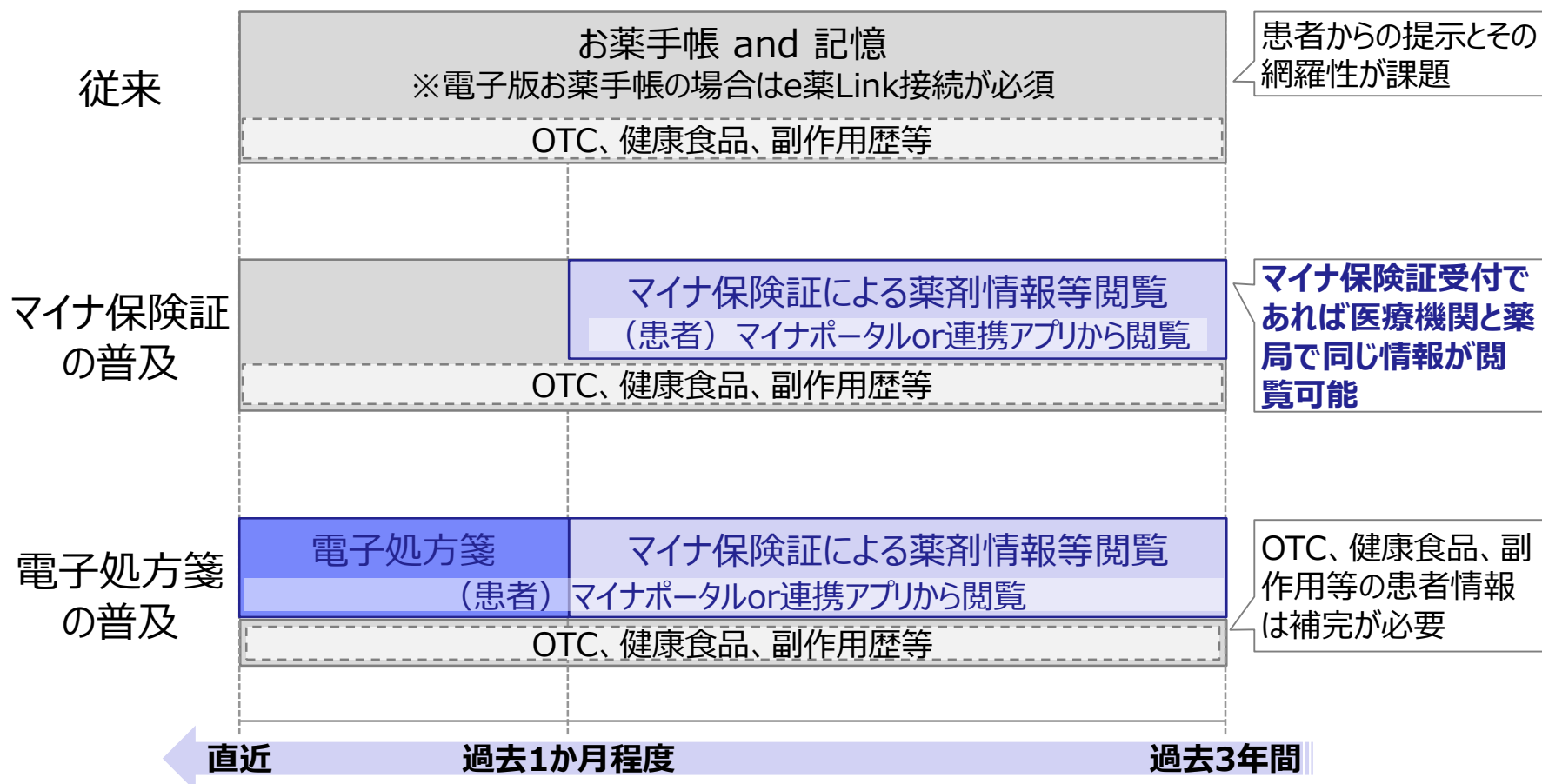
日本保険薬局協会による調査結果 N=101社

問. オン資、及び電子処方箋に関して期待していること（最大5つまで選択可）



情報管理と共有

マイナ保険証受付及び電子処方箋の普及により、薬剤情報や健診情報等の**確実に網羅的な情報管理**と、**患者や処方医との情報共有**が実現し、それにより服薬指導等のサービスの質向上を行います。



安全性向上

情報管理による薬剤師サービスの充実に加えて、**重複・禁忌チェック機能の活用**や、**処方医との連携**が容易になることで薬物治療における**安全性が向上**します。

■ 電子処方箋機能の紹介

重複投薬チェック

■チェック実施日：RYY.MM.DD
●アルメタ軟膏 〇. 1%(662640683) (調剤数量)1 (用法)適宜
【チェック結果】
成分重複あり
同一投与経路で成分が重複しています
アルクロメタゾンプロピオン酸エステル外用
【該当薬剤】
アルメタ軟膏 〇. 1%(662640683) (調剤数量)1 (用法)適宜

併用禁忌チェック

●プレドニン錠5mg(612450118) (調剤数量)30 (用法)1日1回朝食後
【チェック結果】
併用禁忌あり
低ナトリウム血症が発現するおそれがある。
【該当薬剤】
ミニリンメルトOD錠25μg(622688101) (調剤数量)14 (用法)1日1回就寝前
調剤日：RYY.MM.DD
医療機関名称：〇〇〇〇病院
薬局名称：〇〇〇薬局

処方医からの伝達事項

処方入力									
60	患者	花子	昭和60.01.01	38歳(0ヶ月)	女性	特記事項			
06139901	社保								
処-RYY.MM.DD 調-RYY.MM.DD 通常 メディコム病院 メディコム									
◆処-MM/DD メディコム 太郎(内科) 06139901 1 0 0 2 3 4 5 6									
01	調剤基本料								
02	[内服薬]								
03	〇〇〇〇錠500mg								1錠
04	分1 朝食後服用								5日分
05	[内服薬]								
06	△△△△錠250mg								3錠
07	分3 毎食後服用								5日分
08	【コ】 処方医からの伝達事項(メディコム 太郎)(〇〇〇〇錠500mg)：△△の症状のため、薬を変更しています。								
◆処-MM/DD メディコム 八郎(皮膚科) 06139901 1 0 0 2 3 4 5 6									
09	[外用薬]								
10	△△△△軟膏0.05%								10g
11	1日1〜2回患部に塗布								1調剤
12	【コ】 処方医からの伝達事項(メディコム 八郎)(処方箋全体)：×××に注意してください。								

事例)

重複投薬チェック機能により重複を発見し
疑義照会にて処方削除となった。

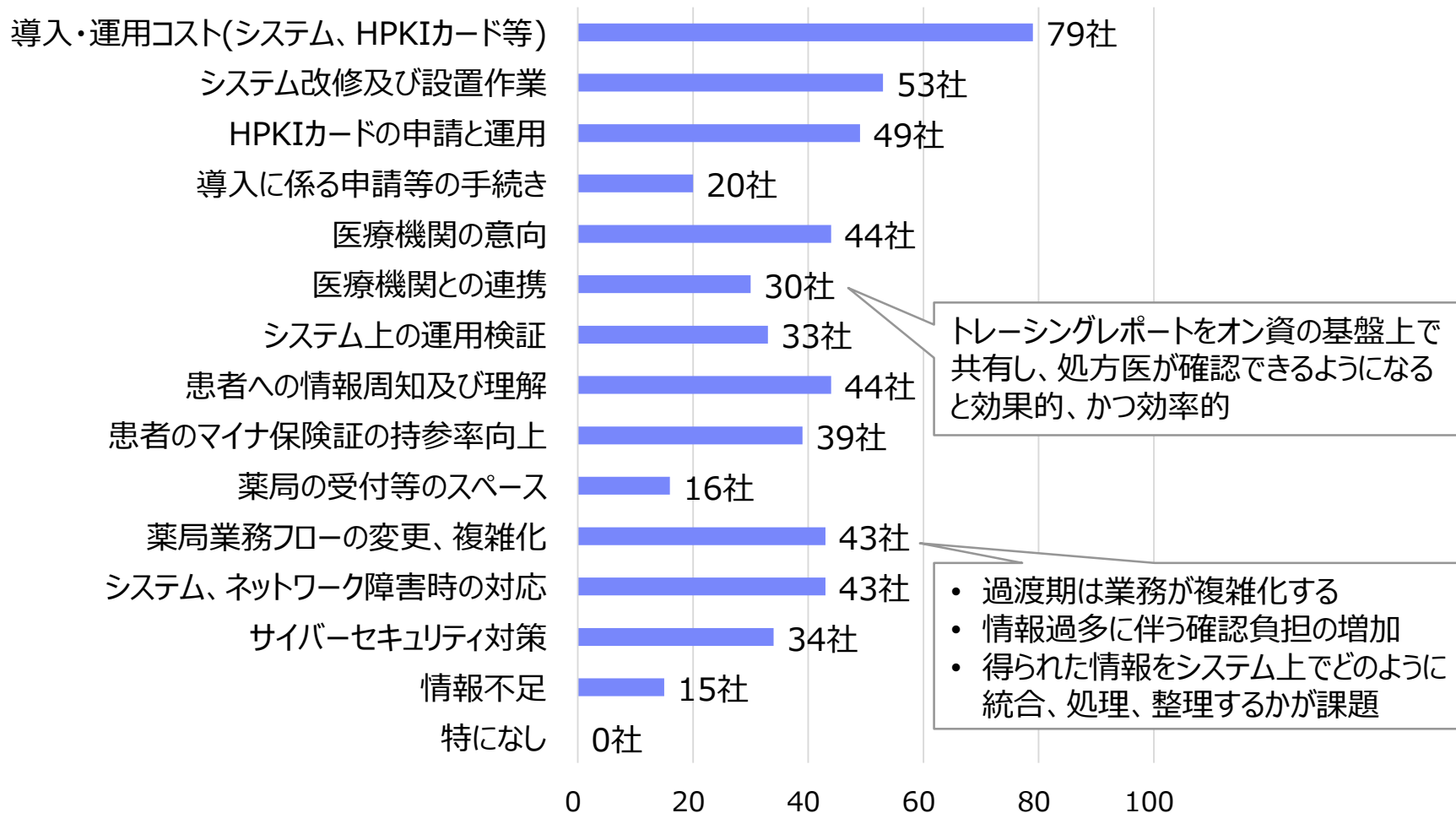
事例)

重複していたが医師からその必要性についてコメントがあり、処方意図が確認できた。

課題

運用コストや業務負担の観点から**速やかな普及**が望めます。また、薬局での活用においては、得られる情報と連携が増えることから、**システムによる情報整理と標準化**が課題と考えます。

問. オン資、及び電子処方箋の対応を開始するうえでの課題を教えてください。（最大5つまで選択可）N=101社





Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会